database path コマンド～ dhcp-server コマンド

database path

ローカル CA サーバ データベースのパスまたは位置を指定するには、CA サーバ コンフィギュレーション モードで **database** コマンドを使用します。フラッシュ メモリへのパスをデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[no] database path *mount-name directory-path*

構文の説明

directory-path	CA ファイルが保存される、マウント ポイント上のディレクトリへのパスを指定します。
mount-name	マウント名を指定します。

デフォルト

デフォルトでは、CA サーバ データベースはフラッシュ メモリに保存されます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
CA サーバ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

データベースに保存されるローカル CA ファイルには、証明書データベース ファイル、ユーザ データベース ファイル、一時 PKCS12 ファイル、および現在の CRL ファイルが含まれます。*mount-name* 引数は、ASA のファイル システムを指定するために使用する **mount** コマンドの *name* 引数と同じです。

（注） これらの CA ファイルは内部保存ファイルです。変更しないでください。

例

次に、CA データベースのマウント ポイントを cifs_share として定義し、そのマウント ポイント上のデータベース ファイル ディレクトリを ca_dir/files_dir として定義する例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca server
ciscoasa(config-ca-server)# database path cifs_share ca_dir/files_dir/
ciscoasa(config-ca-server)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca server	CA サーバ コンフィギュレーション モードの CLI コマンド セットにアクセスできるようにします。これらのコマンドを使用することで、ユーザはローカル CA を設定および管理できます。
crypto ca server user-db write	ローカル CA データベースに設定されているユーザ情報をディスクに書き込みます。
debug crypto ca server	ユーザがローカル CA サーバを設定する場合にデバッグ メッセージを表示します。
mount	Common Internet File System（CIFS）および File Transfer Protocol ファイル システム（FTPFS）の一方または両方を、ASA がアクセスできるようにします。
show crypto ca server	ASA の CA コンフィギュレーションの特性を表示します。
show crypto ca server cert-db	CA サーバが発行する証明書を表示します。

ddns

ダイナミック DNS（DDNS）アップデート方式のタイプを指定するには、DDNS アップデート方式モードで **ddns** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションから更新方式タイプを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ddns [**both**]

no ddns [**both**]

構文の説明

both	（オプション）DNS の A と PTR の両方のリソース レコード（RR）のアップデートを指定します。

デフォルト

DNS A RR のみを更新します。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
DDNS アップデート方式	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DDNS は、DNS で保持されている名前/アドレスおよびアドレス/名前のマッピングを更新します。DDNS 更新を実行するための 2 つの方式（RFC 2136 で規定されている IETF 標準、および一般的な HTTP 方式）のうち、ASA のこのリリースでは、IETF 方式をサポートしています。

名前とアドレスのマッピングは、次の 2 タイプの RR に保持されます。

- A リソース レコードには、ドメイン名から IP アドレスへのマッピングが含まれます。
- PTR リソース レコードには、IP アドレスからドメイン名へのマッピングが含まれます。

DDNS アップデートを使用して、DNS の A RR タイプと PTR RR タイプとの間で一貫した情報を保持できます。

DDNS アップデート方式コンフィギュレーション モードで **ddns** コマンドを発行するとき、アップデートを DNS A RR に対してのみ行うか、DNS の A と PTR の両方の RR タイプに対して行うかを定義します。

例

次に、ddns-2 という名前の DDNS アップデート方式に対し DNS の A と PTR の両方の RR のアップデートを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ddns update method ddns-2
ciscoasa(DDNS-update-method)# ddns both
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns update	DDNS アップデート方式を ASA インターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
ddns update method	DNS のリソース レコードをダイナミックにアップデートするための方式を作成します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデート パラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによる DDNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

ddns update

ダイナミック DNS（DDNS）アップデート方式を、ASA インターフェイスまたはアップデート ホスト名に関連付けるには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ddns update** コマンドを使用します。DDNS 更新方式とインターフェイスまたはホスト名とのアソシエーションを、実行コンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ddns update [*method-name* | **hostname** *hostname*]

no ddns update [*method-name* | **hostname** *hostname*]

構文の説明

hostname	コマンド文字列内の後続の語をホスト名として指定します。
hostname	更新で使用するホスト名を指定します。
method-name	設定するインターフェイスとのアソシエーションの方式名を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DDNS アップデート方式を定義した後、DDNS アップデートをトリガーするために、その DDNS アップデート方式を ASA インターフェイスに関連付ける必要があります。

ホスト名は、完全修飾ドメイン名（FQDN）またはホスト名のみを指定できます。ホスト名のみ指定した場合、ASA は、ドメイン名をホスト名に追加して FQDN を作成します。

例

次に、インターフェイス GigabitEthernet0/2 に ddns-2 という名前の DDNS 更新方式およびホスト名 hostname1.example.com を関連付ける例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/2
ciscoasa(config-if)# ddns update ddns-2
ciscoasa(config-if)# ddns update hostname hostname1.example.com
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update method	DNS のリソース レコードをダイナミックにアップデートするための方式を作成します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデート パラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによる DDNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

ddns update method

DNS リソース レコード(RR)をダイナミックに更新するための方式を作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ddns update method** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションからダイナミック DNS(DDNS)更新方式を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ddns update method *name*

no ddns update method *name*

構文の説明

name	ダイナミックに DNS レコードを更新するための方式の名前を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

DDNS は、DNS で保持されている名前/アドレスおよびアドレス/名前のマッピングを更新します。**ddns update method** コマンドで設定するアップデート方式により、DDNS アップデートの実行方法および実行頻度が決まります。DDNS 更新を実行するための 2 つの方式(RFC 2136 で規定されている IETF 標準、および一般的な HTTP 方式)のうち、ASA のこのリリースでは、IETF 方式をサポートしています。

名前とアドレスのマッピングは、次の 2 タイプのリソース レコード(RR)に保持されます。

- A リソース レコードには、ドメイン名から IP アドレスへのマッピングが含まれます。
- PTR リソース レコードには、IP アドレスからドメイン名へのマッピングが含まれます。

DDNS アップデートを使用して、DNS の A RR タイプと PTR RR タイプとの間で一貫した情報を保持できます。

（注） **ddns update method** コマンドを実行する前に、インターフェイスでドメイン ルックアップをイネーブルにした状態で、**dns** コマンドを使用して到達可能なデフォルト DNS サーバを設定する必要があります。

例

次に、ddns-2 という名前の DDNS 更新方式を設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ddns update method ddns-2
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update	DDNS アップデート方式を ASA インターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すアップデート パラメータを設定します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによるダイナミック DNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

debug

特定機能のデバッグ メッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **debug** コマンドを使用します。デバッグ メッセージの表示をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug *feature* [*subfeature*] [*level*]

no debug *feature* [*subfeature*]

構文の説明

level	(オプション)デバッグ レベルを指定します。このレベルは、一部の機能で使用できない場合があります。
feature	デバッグをイネーブルにする機能を指定します。使用できる機能を表示するには、CLI ヘルプの **debug ?** コマンドを使用します。
subfeature	(オプション)機能によっては、1 つ以上のサブ機能のデバッグ メッセージをイネーブルにできます。

デフォルト

デフォルトのデバッグ レベルは 1 です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
9.13(1)	**debug crypto ca** コマンドが変更され、オプションが少なくなり、デバッグ レベルが 14 に制限されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高プライオリティが割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカル サポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。さらに、**debug** コマンドは、ネットワーク トラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用することを推奨します。デバッギングをこのような時間帯に行うと、**debug** コマンド処理のオーバーヘッドの増加によりシステムの使用に影響が及ぶ可能性が少なくなります。

バージョン 9.13(1) 以降では、**debug crypto ca** コマンドのオプション（**debug crypto ca transactions** と **debug crypto ca messages**）が統合され、すべての該当するコンテンツが **debug crypto ca** コマンド自体に提供されます。また、使用可能なデバッグ レベルの数が 14 に削減されました。

例

次に、**debug aaa internal** コマンドの出力例を示します。

```
ciscoasa(config)# debug aaa internal
debug aaa internal enabled at level 1
ciscoasa(config)# uap allocated. remote address: 10.42.15.172, Session_id: 2147483841
uap freed for user . remote address: 10.42.15.172, session id: 2147483841
```

次に、変更された **debug crypto ca** コマンドを示します。

```
(config)# debug crypto ca ?

exec mode commands/options:
  <1-14>                   Specify an optional debug level (default is 1)
  cluster                  debug PKI cluster
  cmp                      debug the CMP transactions
  periodic-authentication  debug PKI peroidic authentication
  <cr>
```

default（crl 設定）

すべての CRL パラメータをシステム デフォルト値に戻すには、crl 設定コンフィギュレーション モードで **default** コマンドを使用します。

default

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
crl 設定コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの呼び出しは、アクティブなコンフィギュレーションには含まれません。crl 設定コンフィギュレーション モードは、暗号 CA トラストポイント コンフィギュレーション モードからアクセスできます。これらのパラメータは、LDAP サーバで必要な場合のみ使用されます。

例

次に、ca-crl コンフィギュレーション モードを開始して、CRL コマンド値をデフォルトに戻す例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca trustpoint central
ciscoasa(ca-trustpoint)# crl configure
ciscoasa(ca-crl)# default
ciscoasa(ca-crl)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
crl configure	crl 設定コンフィギュレーション モードを開始します。
crypto ca trustpoint	トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
protocol ldap	CRL の取得方法として LDAP を指定します。

default（インターフェイス）

インターフェイス コマンドをシステム デフォルト値に戻すには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **default** コマンドを使用します。

default *command*

構文の説明

command	デフォルトに設定するコマンドを指定します。次に例を示します。 **default activation key**

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは実行時のコマンドです。入力しても、アクティブなコンフィギュレーションの一部にはなりません。

例

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、セキュリティ レベルをデフォルトに戻す例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface gigabitethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# default security-level
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

default（IPv6 ルータ OSPF）

OSPFv3 パラメータをデフォルト値に戻すには、IPv6 ルータ OSPF コンフィギュレーション モードで **default** コマンドを使用します。

default [**area** | **auto-cost** | **default-information** | **default-metric** | **discard-route** | **distance** | **distribute-list** | **ignore** | **log-adjacency-changes** | **maximum-paths** | **passive-interface** | **redistribute** | **router-id** | **summary-prefix** | **timers**]

構文の説明

area	（オプション）OSPFv3 エリア パラメータを指定します。
auto-cost	（オプション）帯域幅に従って OSPFv3 インターフェイスのコストを指定します。
default-information	（オプション）デフォルトの情報を配布します。
default-metric	（オプション）再配布されるルートのメトリックを指定します。
discard-route	（オプション）廃棄ルートの導入をイネーブルまたはディセーブルにします。
distance	（オプション）アドミニストレーティブ ディスタンスを指定します。
distribute-list	（オプション）ルーティング アップデートでネットワークをフィルタリングします。
ignore	（オプション）特定のイベントを無視します。
log-adjacency-changes	（任意）隣接ステートの変更を記録します。
maximum-paths	（オプション）複数のパスを介してパケットを転送します。
passive-interface	（オプション）インターフェイス上のルーティング アップデートを抑制します。
redistribute	（オプション）別のルーティング プロトコルからの IPv6 プレフィックスを再配布します。
router-id	（オプション）指定したルーティング プロセスのルータ ID を指定します。
summary-prefix	（オプション）OSPFv3 集約プレフィックスを指定します。
timers	（任意）OSPFv3 タイマーを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

OSPFv3 パラメータのデフォルト値をリセットするには、このコマンドを使用します。

例

次に、OSPFv3 タイマー パラメータをデフォルト値にリセットする例を示します。

```
ciscoasa(config-router)# default timers spf
```

関連コマンド

コマンド	説明
distance	OSPFv3 ルーティング プロセスのアドミニストレーティブ ディスタンスを指定します。
default-information originate	OSPFv3 ルーティング ドメインへのデフォルトの外部ルートを生成します。
log-adjacency-changes	OSPFv3 ネイバーが起動または停止したときに、ルータが syslog メッセージを送信するように設定します。

default(パラメータ)

IP オプション インスペクション時に特定のアクションを指定しないオプションのデフォルト アクションを定義するには、パラメータ コンフィギュレーション モードで **default** コマンドを使用します。システムのデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default action {allow | clear}

no default action {allow | clear}

構文の説明

allow	IP オプション インスペクション ポリシー マップに明示的に指定されていないオプションを含んでいるパケットを許可します。
clear	IP オプション インスペクション ポリシー マップに明示的に指定されていないオプションをパケット ヘッダーから削除してから、パケットを許可します。

デフォルト

デフォルトでは、IP オプション インスペクションはルータアラート オプションを許可しますが、その他の IP オプションを含んでいるパケットはドロップします。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
パラメータ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.5(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、IP オプション インスペクション ポリシー マップで設定できます。

IP オプション インスペクションを設定して、どの IP パケットが所定の IP オプションを持ち、ASA を通過できるかを制御できます。変更せずにパケットを通過させたり、指定されている IP オプションをクリアしてからパケットを通過させたりできます。

例

次に、IP オプション インスペクションのアクションをポリシー マップで設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# policy-map type inspect ip-options ip-options_map
ciscoasa(config-pmap)# parameters
ciscoasa(config-pmap-p)# default action clear
ciscoasa(config-pmap-p)# router-alert action allow
```

関連コマンド

コマンド	説明
class	ポリシー マップのクラス マップ名を指定します。
class-map type inspect	アプリケーション固有のトラフィックを照合するためのインスペクション クラス マップを作成します。
policy-map	レイヤ 3/4 のポリシー マップを作成します。
show running-config policy-map	現在のポリシー マップ コンフィギュレーションをすべて表示します。

default（時間範囲）

absolute コマンドおよび **periodic** コマンドの設定をデフォルトに戻すには、時間範囲コンフィギュレーション モードで **default** コマンドを使用します。

default {**absolute** | **periodic** *days-of-the-week time* **to** [*days-of-the-week*] *time*}

構文の説明

absolute	時間範囲が有効になる絶対時間を定義します。
days-of-the-week	最初の days-of-the-week 引数は、関連付けられている有効時間範囲が開始する日または曜日です。2 番めの days-of-the-week 引数は、関連付けられているステートメントの有効期間が終了する日または曜日です。 この引数は、単一の曜日または曜日の組み合わせです（Monday（月曜日）、Tuesday（火曜日）、Wednesday（水曜日）、Thursday（木曜日）、Friday（金曜日）、Saturday（土曜日）、および Sunday（日曜日））。他に指定できる値は、次のとおりです。 • daily：月曜日～日曜日 • weekdays：月曜日～金曜日 • weekend：土曜日と日曜日 終了の曜日が開始の曜日と同じ場合は、終了の曜日を省略できます。
periodic	時間範囲機能をサポートする機能に対して、定期的な（週単位の）時間範囲を指定します。
時刻	時刻を HH:MM 形式で指定します。たとえば、午前 8 時は 8:00、午後 8 時は 20:00 とします。
to	「開始時刻から終了時刻まで」の範囲を入力するには、**to** キーワードを入力する必要があります。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
時間範囲コンフィギュレーション	•	•	•	•	

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

終了の days-of-the-week 値が開始の days-of-the-week 値と同じ場合、終了の days-of-the-week 値を省略できます。

time-range コマンドに **absolute** 値と **periodic** 値の両方が指定されている場合、**periodic** コマンドは absolute start 時刻を経過した後にのみ評価の対象になり、absolute end 時刻を経過した後は評価の対象にはなりません。

時間範囲機能は、ASA のシステム クロックに依存しています。ただし、この機能は NTP 同期を使用すると最適に動作します。

例

次に、**absolute** キーワードの動作をデフォルトに戻す例を示します。

```
ciscoasa(config-time-range)# default absolute
```

関連コマンド

コマンド	説明
absolute	時間範囲が有効になる絶対時間を定義します。
periodic	時間範囲機能をサポートする機能に対して、定期的な（週単位の）時間範囲を指定します。
time-range	時間に基づいて ASA のアクセス コントロールを定義します。

default-acl

ポスチャ検証が失敗した NAC フレームワーク セッションのデフォルトの ACL として使用されるように ACL を指定するには、nac ポリシー nac フレームワーク コンフィギュレーション モードで **default-acl** コマンドを使用します。このコマンドを NAC ポリシーから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

[**no**] **default-acl** *acl-name*

構文の説明

acl-name	セッションに適用されるアクセス コントロール リストの名前を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
nac ポリシー nac フレームワーク コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。
8.0(2)	コマンド名から「nac-」が削除されました。コマンドが、グループ ポリシー コンフィギュレーション モードから nac ポリシー nac フレームワーク コンフィギュレーション モードに移動されました。

使用上のガイドライン

各グループ ポリシーは、ポリシーに一致し、NAC に対して適格なホストに適用されるデフォルト ACL を指しています。ASA は、ポスチャ検証の前に NAC のデフォルト ACL を適用します。ポスチャ検証の後、ASA はデフォルト ACL をリモート ホストのアクセス コントロール サーバから取得した ACL に置き換えます。ポスチャ確認が失敗した場合は、デフォルト ACL がそのまま使われます。

また、ASA は、クライアントレス認証がイネーブルになっている（デフォルト設定）場合にも、NAC のデフォルト ACL を適用します。

例

次に、ポスチャ検証が成功する前に適用される ACL として acl-1 を指定する例を示します。

```
ciscoasa(config-group-policy)# default-acl acl-1
ciscoasa(config-group-policy)
```

次の例では、デフォルト グループ ポリシーから ACL を継承しています。

```
ciscoasa(config-group-policy)# no default-acl
ciscoasa(config-group-policy)
```

関連コマンド

コマンド	説明
nac-policy	Cisco NAC ポリシーを作成してアクセスし、そのタイプを指定します。
nac-settings	NAC ポリシーをグループ ポリシーに割り当てます。
debug nac	NAC フレームワーク イベントのロギングをイネーブルにします。
show vpn-session_summary.db	IPsec、WebVPN、および NAC セッションの数を表示します。
show vpn-session.db	NAC の結果を含む、VPN セッションの情報を表示します。

default-domain

グループ ポリシーのユーザのデフォルト ドメイン名を設定するには、グループ ポリシー コンフィギュレーション モードで **default-domain** コマンドを使用します。ドメイン名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-domain {**value** *domain-name* | **none**}

no default-domain [*domain-name*]

構文の説明

none	デフォルト ドメイン名がないことを指定します。デフォルト ドメイン名にヌル値を設定して、デフォルト ドメイン名を拒否します。デフォルトまたは指定したグループ ポリシーのデフォルト ドメイン名は継承されません。
value *domain-name*	グループのデフォルト ドメイン名を指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グループ ポリシー コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ユーザがドメイン名を継承しないようにするには、**default-domain none** コマンドを使用します。

ASA は、ドメイン フィールドを省略した DNS クエリーに追加するために、AnyConnect セキュア モビリティ クライアントまたはレガシーの VPN クライアント（IPsec/IKEv1）にデフォルト ドメイン名を渡します。このドメイン名は、トンネル パケットにのみ適用されます。デフォルト ドメイン名がない場合、ユーザはデフォルト グループ ポリシーのデフォルト ドメイン名を継承します。

デフォルト ドメイン名に使用できるのは、英数字、ハイフン（-）、およびピリオド（.）のみです。

例

次に、FirstGroup という名前のグループ ポリシーに対して、FirstDomain のデフォルト ドメイン名を設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# group-policy FirstGroup attributes
ciscoasa(config-group-policy)# default-domain value FirstDomain
```

関連コマンド

コマンド	説明
split-dns	スプリット トンネルを介して解決されるドメインのリストを提供します。
split-tunnel-network-list	トンネリングが必要なネットワークと不要なネットワークを区別するために、ASA が使用するアクセス リストを指定します。
split-tunnel-policy	IPsec クライアントが条件に応じてパケットを暗号化形式で IPsec トンネルを経由して転送したり、クリア テキスト形式でネットワーク インターフェイスに転送したりできるようにします。

default enrollment

すべての登録パラメータをシステム デフォルト値に戻すには、クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーション モードで **default enrollment** コマンドを使用します。

default enrollment

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーション	•	•	•	•	•

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの呼び出しは、アクティブなコンフィギュレーションには含まれません。

例

次に、トラストポイント central のクリプト CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始して、すべての登録パラメータをトラストポイント central 内のデフォルト値に戻す例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca trustpoint central
ciscoasa(ca-trustpoint)# default enrollment
ciscoasa(ca-trustpoint)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure crypto ca trustpoint	すべてのトラストポイントを削除します。
crl configure	CRL コンフィギュレーション モードを開始します。
crypto ca trustpoint	トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。

default-group-policy（imap4s、pop3s、smtps）（廃止）

(注) このコマンドをサポートする最後のリリースは、7.5(1) でした。

電子メール プロキシ設定でグループ ポリシーが指定されない場合に使用するグループ ポリシーの名前を指定するには、さまざまなコンフィギュレーション モードで **default-group-policy** コマンドを使用します。コンフィギュレーションから属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-group-policy *groupname*

no default-group-policy

構文の説明

groupname	デフォルト グループ ポリシーとして使用する、設定済みのグループ ポリシーを指定します。**group-policy** コマンドを使用して、グループ ポリシーを設定します。

デフォルト

DfltGrpPolicy という名前のデフォルト グループ ポリシーは、常に、ASA に存在します。この **default-group-policy** コマンドを使用すると、作成したグループ ポリシーを、電子メール プロキシ セッション用のデフォルト グループ ポリシーとして置き換えることができます。または、DfltGrpPolicy を編集することもできます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
Imap4s コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—
Pop3s コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—
smtps コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

Version	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
7.5(2)	このコマンドは廃止されました。

使用上のガイドライン

セッション、IMAP4S セッション、POP3S セッション、および SMTPS セッションには、指定されたグループ ポリシーまたはデフォルト グループ ポリシーが必要です。このコマンドは、該当する電子メール プロキシ モードで使用します。

システムの DefaultGroupPolicy は編集できますが、削除はしないでください。DefaultGroupPolicy の AVP は、次のとおりです。

属性	デフォルト値
wins-server	none
dns-server	none
dhcp-network-scope	none
vpn-access-hours	unrestricted
vpn-simultaneous-logins	3
vpn-idle-timeout	30 分
vpn-session-timeout	none
vpn-filter	none
vpn-tunnel-protocol	WebVPN
ip-comp	disable
re-xauth	disable
group-lock	none
pfs	disable
client-access-rules	none
banner	none
password-storage	disabled
ipsec-udp	disabled
ipsec-udp-port	0
backup-servers	keep-client-config
split-tunnel-policy	tunnelall
split-tunnel-network-list	none
default-domain	none
split-dns	none
intercept-dhcp	disable
client-firewall	none
secure-unit-authentication	disabled
user-authentication	disabled
user-authentication-idle-timeout	none
ip-phone-bypass	disabled
leap-bypass	disabled
nem	disabled

例

次に、pop3s という名前の POP3S のデフォルト グループ ポリシーを指定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# pop3s
ciscoasa(config-webvpn)# default-group-policy pop3s
```

default-group-policy（トンネル グループ一般属性）

ユーザがデフォルトで継承する属性のセットを指定するには、トンネル グループ一般属性コンフィギュレーション モードで **default-group-policy** コマンドを使用します。デフォルトのグループ ポリシー名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-group-policy *group-name*

no default-group-policy *group-name*

構文の説明

group-name	デフォルト グループの名前を指定します。

デフォルト

デフォルト グループ名は DfltGrpPolicy です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
トンネル グループ一般属性コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

Version	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
7.1(1)	webvpn コンフィギュレーション モードの **default-group-policy** コマンドは廃止されました。このコマンドは、トンネル グループ一般属性モードの **default-group-policy** コマンドに置き換えられています。

使用上のガイドライン

バージョン 7.1(1) では、このコマンドを webvpn コンフィギュレーション モードで入力すると、トンネル グループ一般属性モードの同等のコマンドに変換されます。

デフォルト グループ ポリシー DfltGrpPolicy には、ASA が初期設定されています。この属性は、すべてのトンネル グループ タイプに適用できます。

例

次に、config-general コンフィギュレーション モードを開始し、ユーザがデフォルトで、「standard-policy」という IPsec LAN-to-LAN トンネル グループの属性セットを継承するように指定する例を示します。このコマンド セットでは、アカウンティング サーバ、認証サーバ、認可サーバ、およびアドレス プールを定義します。

```
ciscoasa(config)# tunnel-group standard-policy type ipsec-ra
ciscoasa(config)# tunnel-group standard-policy general-attributes
ciscoasa(config-tunnel-general)# default-group-policy first-policy
```

```
ciscoasa(config-tunnel-general)# accounting-server-group aaa-server123
ciscoasa(config-tunnel-general)# address-pool (inside) addrpool1 addrpool2 addrpool3
ciscoasa(config-tunnel-general)# authentication-server-group aaa-server456
ciscoasa(config-tunnel-general)# authorization-server-group aaa-server78
ciscoasa(config-tunnel-general)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear-configure tunnel-group	設定されているすべてのトンネル グループをクリアします。
group-policy	グループ ポリシーを作成または編集します。
show running-config tunnel group	すべてのトンネル グループまたは特定のトンネル グループのトンネル グループ コンフィギュレーションを表示します。
tunnel-group general-attributes	名前付きのトンネル グループの一般属性を指定します。

default-idle-timeout

WebVPN ユーザのデフォルト アイドル タイムアウト値を設定するには、webvpn コンフィギュレーション モードで **default-idle-timeout** コマンドを使用します。デフォルトのタイムアウト値をコンフィギュレーションから削除し、デフォルトをリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-idle-timeout *seconds*

no default-idle-timeout

構文の説明

seconds	アイドル タイムアウトの秒数を指定します。最小値は 60 秒で、最大値は 1 日（86400 秒）です。

デフォルト

1800 秒（30 分）。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
webvpn コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ユーザのアイドル タイムアウトが定義されていない場合、値が 0 の場合、または値が有効な値の範囲外である場合に、ASA では、ここで設定した値が使用されます。デフォルト アイドル タイムアウトにより、セッションの失効を回避できます。

クッキーがディセーブルに設定されているブラウザ（またはクッキーを求めた後クッキーを拒否するブラウザ）を使用すると、接続されていないユーザがセッション データベースに出現する可能性があるため、このコマンドは短時間に設定することを推奨します。許可される最大接続数が（**vpn-simultaneous-logins** コマンドを介して）1 に設定されている場合、最大接続数がすでに存在することがデータベースによって示されるため、ユーザは再ログインすることができません。アイドル タイムアウトを短く設定すると、このようなファントム セッションを迅速に削除し、ユーザが再ログインできるようにすることができます。

例

次に、デフォルト アイドル タイムアウトを 1200 秒（20 分）に設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# webvpn
ciscoasa(config-webvpn)# default-idle-timeout 1200
```

関連コマンド

コマンド	説明
vpn-simultaneous-logins	許可される同時 VPN セッションの最大数を設定します。

default-information

EIGRP ルーティング プロセスのデフォルト ルート情報候補を制御するには、ルータ EIGRP コンフィギュレーション モードで **default-information** コマンドを使用します。着信更新または発信更新で EIGRP デフォルト ルート情報候補を非表示にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-information {**in** | **out**} [*acl-name*]

no default-information {**in** | **out**}

構文の説明

acl-name	(オプション)名前付きの標準アクセス リストを指定します。
in	外部のデフォルト ルーティング情報を受け入れるように EIGRP を設定します。
out	外部ルーティング情報をアドバタイズするように EIGRP を設定します。

デフォルト

外部ルートが受け入れられ、送信されます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
ルータ EIGRP コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。
9.0(1)	マルチ コンテキスト モードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

アクセス リストが指定されたこのコマンドまたは **default-information** コマンドの **no** 形式のみが実行コンフィギュレーションに表示されます。これは、デフォルト ルーティング情報候補がデフォルトで受け入れられ、送信されるためです。このコマンドの **no** 形式には、*acl-name* 引数はありません。

例

次に、外部デフォルト ルート情報またはデフォルト ルート情報候補の受領をディセーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# router eigrp 100
ciscoasa(config-router)# no default-information in
```

関連コマンド

コマンド	説明
router eigrp	EIGRP ルーティング プロセスを作成し、このプロセスのコンフィギュレーション モードを開始します。

default-information originate

IS-IS ルーティング ドメインへのデフォルト ルートを生成するには、ISIS コンフィギュレーション モードで **default-information originate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-information originate [route-map *map-name***]**

no default-information originate [route-map *map-name***]**

構文の説明

route-map	（任意）ルーティング プロセスは、ルート マップが満たされている場合にデフォルト ルートを生成します。
map-name	ルート マップ名。

デフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
ルータ isis コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.6(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して設定されたルータがルーティング テーブルに 0.0.0.0 へのルートを持っている場合、IS-IS は LSP で 0.0.0.0 に対するアドバタイズメントを発信します。

ルート マップが存在しない場合、デフォルトではレベル 2 LSP だけでアドバタイズされます。レベル 1 ルーティングでデフォルト ルートを発見するメカニズムには、最も近いレベル 1 またはレベル 2 ルータを探すというものがあります。最も近いレベル 1 またはレベル 2 ルータは、レベル 1 LSP で Attach ビット（ATT）を調べることにより検出できます。

ルート マップは次の 2 つの目的で使用できます。

- ASA にレベル 1 LSP でデフォルトを生成させます。
- 条件に従って 0/0 をアドバタイズします。

match ip address standard-access-list コマンドを使用して、ルータが 0/0 をアドバタイズする前に存在しなければならない 1 つ以上の IP ルートを指定することができます。

例

次に示す例は、ソフトウェアにデフォルト外部ルートを IS-IS ドメイン内に生成させる例を示します。

```
router isis
! ISIS routes will be distributed into IS-IS
redistribute isis 120 metric
! access list 2 is applied to outgoing routing updates
default-information originate
! access list 2 defined as giving access to network 10.105.0.0
access-list 2 permit 10.105.0.0 0.0.255.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
advertise passive-only	パッシブ インターフェイスをアドバタイズするように ASA を設定します。
area-password	IS-IS エリア認証パスワードを設定します。
認証キー	IS-IS の認証をグローバルで有効にします。
authentication mode	グローバルな IS-IS インスタンスに対して IS-IS パケットで使用される認証モードのタイプを指定します。
authentication send-only	グローバルな IS-IS インスタンスでは、送信される（受信ではなく）IS-IS パケットでのみ認証が実行されるように設定します。
clear isis	IS-IS データ構造をクリアします。
distance	IS-IS プロトコルにより発見されたルートに割り当てられるアドミニストレーティブ ディスタンスを定義します。
domain-password	IS-IS ドメイン認証パスワードを設定します。
fast-flood	IS-IS LSP がフルになるように設定します。
hello padding	IS-IS hello をフル MTU サイズに設定します。
hostname dynamic	IS-IS ダイナミック ホスト名機能を有効にします。
ignore-lsp-errors	内部チェックサム エラーのある IS-IS LSP を受信した場合に LSP をパージするのではなく無視するように ASA を設定します。
isis adjacency-filter	IS-IS 隣接関係の確立をフィルタ処理します。
isis advertise-prefix	IS-IS インターフェイスで、LSP アドバタイズメントを使用して接続中のネットワークの IS-IS プレフィックスをアドバタイズします。
isis authentication key	インターフェイスに対する認証を有効にします。
isis authentication mode	インターフェイスごとに、インスタンスに対して IS-IS パケットで使用される認証モードのタイプを指定します。
isis authentication send-only	送信される（受信ではなく）IS-IS パケットに対してのみ認証を実行するように、インターフェイスごとの IS-IS インスタンスを設定します。
isis circuit-type	IS-IS で使用される隣接関係のタイプを設定します。
isis csnp-interval	ブロードキャスト インターフェイス上で定期的に CSNP パケットが送信される間隔を設定します。
isis hello-interval	IS-IS が連続して hello パケットを送信する時間の長さを指定します。
isis hello-multiplier	ネイバーが見落とすことができる IS-IS hello パケット数の最大値を指定します。見落とされたパケット数がこの値を超えると、ASA は隣接がダウンしていると宣言します。
isis hello padding	IS-IS hello をインターフェイスごとのフル MTU サイズに設定します。

コマンド	説明
isis lsp-interval	インターフェイスごとの連続する IS-IS LSP 送信間の遅延時間を設定します。
isis metric	IS-IS メトリックの値を設定します。
isis password	インターフェイスの認証パスワードを設定します。
isis priority	インターフェイスでの指定された ASA のプライオリティを設定します。
isis protocol shutdown	インターフェイスごとに IS-IS プロトコルを無効にします。
isis retransmit-interval	インターフェイス上の各 IS-IS LSP の再送信間の時間を設定します。
isis retransmit-throttle-interval	インターフェイス上の各 IS-IS LSP の再送信間の時間を設定します。
isis tag	IP プレフィックスが LSP に挿入されたときに、インターフェイスに設定された IP アドレスにタグを設定します。
is-type	IS-IS ルーティング プロセスのルーティング レベルを割り当てます。
log-adjacency-changes	NLSP IS-IS 隣接関係がステートを変更(アップまたはダウン)する際に、ASA がログ メッセージを生成できるようにします。
lsp-full suppress	PDU がフルになったときに、抑制されるルートを設定します。
lsp-gen-interval	LSP 生成の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。
lsp-refresh-interval	LSP の更新間隔を設定します。
max-area-addresses	IS-IS エリアの追加の手動アドレスを設定します。
max-lsp-lifetime	LSP が更新されずに ASA のデータベース内で保持される最大時間を設定します。
maximum-paths	IS-IS のマルチパス ロード シェアリングを設定します。
metric	すべての IS-IS インターフェイスのメトリック値をグローバルに変更します。
metric-style	新規スタイル、長さ、および値オブジェクト(TLV)を生成し、TLV のみを受け入れるように、IS-IS を稼働している ASA を設定します。
net	ルーティング プロセスの NET を指定します。
passive-interface	パッシブ インターフェイスを設定します。
prc-interval	PRC の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。
protocol shutdown	インターフェイス上で隣接関係を形成して LSP データベースをクリアすることができないように、IS-IS プロトコルをグローバルで無効にします。
redistribute isis	特にレベル 1 からレベル 2 へ、またはレベル 2 からレベル 1 へ、IS-IS ルートを再配布します。
route priority high	IS-IS IP プレフィックスにハイ プライオリティを割り当てます。
router isis	IS-IS ルーティングをイネーブルにします。
set-attached-bit	レベル 1 と レベル 2 間のルータが Attach ビットを設定する必要がある場合の制約を指定します。
set-overload-bit	SPF 計算の中間ホップとして使用できないことを他のルータに通知するように ASA を設定します。
show clns	CLNS 固有の情報を表示します。
show isis	IS-IS の情報を表示します。

コマンド	説明
show route isis	IS-IS ルートを表示します。
spf-interval	SPF 計算の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。
summary-address	IS-IS の集約アドレスを作成します。

default-information originate（アドレス ファミリ）

デフォルト ルート（ネットワーク 0.0.0.0）を配布するように Border Gateway Protocol（BGP）ルーティング プロセスを設定するには、アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで **default-information originate** コマンドを使用します。デフォルト ルートのアドバタイズメントをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-information originate

no default-information originate

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
アドレス ファミリ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

default-information originate コマンドは、デフォルト ルート（ネットワーク 0.0.0.0）をアドバタイズするように BGP ルーティング プロセスを設定するために使用されます。再配布ステートメントも、この設定を完了するように設定されている必要があります。そうでない場合、デフォルト ルートはアドバタイズされません。

BGP の **default-information originate** コマンドの設定は、**network (BGP)** コマンドの設定に似ています。ただし、**default-information originate** コマンドは、ルート 0.0.0.0 の明示的な再配布が必要です。**network** コマンドでは、ルート 0.0.0.0 が内部ゲートウェイ プロトコル（IGP）のルーティング テーブルに存在することのみが必要です。したがって、**network** コマンドが優先されます。

（注） **default-information originate** コマンドは、同じルータで **neighbor default-originate** コマンドとともに設定しないでください。どちらか一方を設定する必要があります。

例

次の例では、ルータは BGP ルーティング プロセスに OSPF からデフォルト ルートを再配布するように設定されます。

```
ciscoasa(config)# router bgp 50000
ciscoasa(config-router)# address-family ipv4
ciscoasa(config-router-af)# default-information originate
ciscoasa(config-router-af)# redistribute ospf 100
```

関連コマンド

コマンド	説明
network	Border Gateway Protocol（BGP）およびマルチプロトコル BGP ルーティング プロセスによってアドバタイズされるネットワークを指定します。
neighbor default-originate	BGP スピーカー（ローカル ルータ）にネイバーへのデフォルト ルート 0.0.0.0 の送信を許可して、このルートがデフォルト ルートとして使用されるようにします。

default-information originate（IPv6 ルータ OSPF、ルータ OSPF）

OSPFv2 または OSPFv3 ルーティング ドメインへのデフォルトの外部ルートを生成するには、ルータ コンフィギュレーション モードまたは IPv6 ルータ コンフィギュレーション モードで **default-information originate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-information originate [**always**] [**metric** *value*] [**metric-type** {**1** | **2**}] [**route-map** *map-name*]

no default-information originate [[**always**] [**metric** *value*] [**metric-type** {**1** | **2**}] [**route-map** *map-name*]]

構文の説明

always	（オプション）ソフトウェアにデフォルト ルートがあるかどうかにかかわらず、常に、デフォルト ルートをアドバタイズします。
metric *value*	（オプション）OSPF のデフォルト メトリック値を、0 ～ 16777214 の範囲で指定します。
metric-type {**1** | **2**}	（任意）OSPF ルーティング ドメインにアドバタイズされるデフォルトのルートに関連付けられる外部リンク タイプを指定します。有効な値は、次のとおりです。 • **1**: タイプ 1 の外部ルート • **2**: タイプ 2 の外部ルート
route-map *map-name*	（オプション）適用するルート マップの名前を指定します。

デフォルト

デフォルト値は次のとおりです。

- **metric** *value* は 10 です。
- **metric-type** は 2 です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
IPv6 ルータ OSPF コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—
ルータ OSPF コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
9.0(1)	OSPFv3 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの **no** 形式をオプションのキーワードおよび引数とともに使用すると、コマンドからオプションの情報のみが削除されます。たとえば、**no default-information originate metric** *3* コマンドを入力すると、実行コンフィギュレーションのコマンドから **metric** *3* オプションが削除されます。コマンド全体を実行コンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式をオプションなしで使用します（**no default-information originate**）。

例

次に、オプションのメトリックおよびメトリック タイプとともに **default-information originate** コマンドを使用する例を示します。

```
ciscoasa(config-rtr)# default-information originate always metric 3 metric-type 2
ciscoasa(config-rtr)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
router ospf	ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config router	グローバル ルータ コンフィギュレーションの OSPFv2 コマンドを表示します。
ipv6 router ospf	IPv6 のルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config ipv6 router	グローバル ルータ コンフィギュレーションの OSPFv3 コマンドを表示します。

default-information originate（ルータ RIP）

RIP へのデフォルト ルートを生成するには、ルータ コンフィギュレーション モードで **default-information originate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-information originate [**route-map** *name*]

no default-information originate [**route-map** *name*]

構文の説明

route-map *name*	（任意）適用するルート マップ名。ルート マップが一致すると、ルーティング プロセスによってデフォルト ルートが生成されます。

デフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
ルータ RIP コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

default-information originate コマンドで参照されるルート マップは拡張アクセス リストを使用できません。標準のアクセス リストのみを使用できます。

例

次に、デフォルト ルートを RIP に生成する例を示します。

```
ciscoasa(config)# router rip
ciscoasa(config-router)# network 10.0.0.0
ciscoasa(config-router)# default-information originate
```

関連コマンド

コマンド	説明
router rip	RIP ルーティング プロセスのルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config router	グローバル ルータ コンフィギュレーションのコマンドを表示します。

default-language

クライアントレス SSL VPN ページに表示されるデフォルト言語を設定するには、webvpn コンフィギュレーション モードで **default-language** コマンドを使用します。

default-language *language*

構文の説明

language	事前にインポート済みの変換テーブルの名前を指定します。

デフォルト

デフォルト言語は en-us（米国で使用されている英語）です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
webvpn コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ASA では、ブラウザベースのクライアントレス SSL VPN 接続を開始するユーザに表示されるポータルと画面、および AnyConnect VPN クライアント ユーザに表示されるユーザ インターフェイスで使用される言語を変換できます。適切なコンプライアンスを実現するために、language パラメータは RFC-1766 で定義されている形式を使用する必要があります。

クライアントレス SSL VPN ユーザが最初に ASA に接続しログインする前にデフォルトの言語が表示されます。その後は、トンネル グループ設定またはトンネル ポリシー設定およびこれらの設定が参照するカスタマイズに基づいて言語が表示されます。

例

次に、*Sales* という名前を指定して、デフォルト言語を中国語に変更する例を示します。

```
ciscoasa(config-webvpn)# default-language zh
```

関連コマンド

コマンド	説明
import webvpn translation-table	変換テーブルをインポートします。
revert	キャッシュ メモリから変換テーブルを削除します。
show import webvpn translation-table	インポートした変換テーブルに関する情報を表示します。

default-mapping-rule

マッピングアドレスおよびポート(MAP)ドメイン内のデフォルト マッピング ルールを設定するには、MAP ドメインのコンフィギュレーション モードで **default-mapping-rule** コマンドを使用します。基本マッピングルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-mapping-rule *ipv6_prefix/prefix_length*

no default-mapping-rule *ipv6_prefix/prefix_length*

構文の説明

ipv6_prefix/prefix_length	RFC 6052 に従って IPv4 宛先アドレスを埋め込むために使用される IPv6 プレフィックス。通常のプレフィックスの長さは 64 ですが、使用可能な値は 32、40、48、56、64、または 96 です。埋め込み IPv4 アドレスの後の任意の末尾ビットは 0 に設定されます。

デフォルト

デフォルト設定はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
MAP ドメイン コンフィギュレーション モード	• 対応	• —	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.13(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ボーダーリレー(BR)デバイスはこのルールを使用し、MAP ドメイン外のすべての IPv4 アドレスを、MAP ドメイン内で動作する IPv6 アドレスに変換します。MAP ドメイン内の MAP-T カスタマーエッジ(CE)デバイスは、このルールを使用して IPv4 デフォルトルートをインストールします。

例

次の例では、1 という名前の MAP-T ドメインを作成して、ドメインの変換ルールを設定しています。

```
ciscoasa(config)# map-domain 1
ciscoasa(config-map-domain)# default-mapping-rule 2001:DB8:CAFE:CAFE::/64
ciscoasa(config-map-domain)# basic-mapping-rule
ciscoasa(config-map-domain-bmr)# ipv4-prefix 192.168.3.0 255.255.255.0
ciscoasa(config-map-domain-bmr)# ipv6-prefix 2001:cafe:cafe:1::/64
```

```
ciscoasa(config-map-domain-bmr)# start-port 1024
ciscoasa(config-map-domain-bmr)# share-ratio 16
```

関連コマンド

コマンド	説明
basic-mapping-rule	MAP ドメインの基本マッピング ルールを設定します。
default-mapping-rule	MAP ドメインのデフォルト マッピング ルールを設定します。
ipv4-prefix	MAP ドメインの基本マッピング ルールの IPv4 プレフィックスを設定します。
ipv6-prefix	MAP ドメインの基本マッピング ルールの IPv6 プレフィックスを設定します。
map-domain	マッピング アドレスおよびポート(MAP)ドメインを設定します。
share-ratio	MAP ドメインの基本マッピング ルールのポート数を設定します。
show map-domain	マッピング アドレスおよびポート(MAP)ドメインに関する情報を表示します。
start-port	MAP ドメインの基本マッピング ルールの開始ポートを設定します。

default-mcast-group

VTEP 送信元インターフェイスに関連付けられているすべての VXLAN VNI インターフェイスにデフォルトのマルチキャスト グループを指定するには、NVE コンフィギュレーション モードで **default-mcast-group** コマンドを使用します。デフォルト グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-mcast-group *mcast_ip*

no default-mcast-group

構文の説明

mcast_ip	デフォルトのマルチキャスト グループの IP アドレスを設定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
Nve コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.4(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ASA がピア VTEP の背後にあるデバイスにパケットを送信する場合、ASA には次の 2 つの重要な情報が必要です。

- リモート デバイスの宛先 MAC アドレス
- ピア VTEP の宛先 IP アドレス

ASA がこの情報を検出するには 2 つの方法あります。

- 単一のピア VTEP IP アドレスを ASA に静的に設定できます。

  手動で複数のピアを定義することはできません。

  ASA が VXLAN カプセル化 ARP ブロードキャストを VTEP に送信し、エンド ノードの MAC アドレスを取得します。

- マルチキャスト グループは、VNI インターフェイスごとに（または、**default-mcast-address** コマンドを使用して VTEP 全体に）設定できます。

  ASA は、IP マルチキャスト パケット内の VXLAN カプセル化 ARP ブロードキャスト パケットを VTEP 送信元インターフェイスを経由して送信します。この ARP 要求への応答により、ASA はリモート VTEP の IP アドレスと、リモート エンド ノードの宛先 MAC アドレスの両方を取得することができます。

ASA は VNI インターフェイスのリモート VTEP IP アドレスに対する宛先 MAC アドレスのマッピングを維持します。

VNI インターフェイスごとにマルチキャスト グループを設定していない場合は、デフォルトのグループが使用されます。その VNI インターフェイス レベルでグループを設定している場合は、そのグループがこの設定よりも優先されます。

例

次に、GigabitEthernet 1/1 インターフェイスを VTEP 送信元インターフェイスとして設定し、デフォルトのマルチキャスト グループ 236.0.0.100 を指定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface gigabitethernet 1/1
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# nve 1
ciscoasa(cfg-nve)# source-interface outside
ciscoasa(cfg-nve)# default-mcast-group 236.0.0.100
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug vxlan	VXLAN トラフィックをデバッグします。
default-mcast-group	VTEP 送信元インターフェイスに関連付けられているすべての VNI インターフェイスのデフォルトのマルチキャスト グループを指定します。
encapsulation vxlan	NVE インスタンスを VXLAN カプセル化に設定します。
inspect vxlan	標準 VXLAN ヘッダー形式に強制的に準拠させます。
interface vni	VXLAN タギング用の VNI インターフェイスを作成します。
mcast-group	VNI インターフェイスのマルチキャスト グループ アドレスを設定します。
nve	ネットワーク仮想化エンドポイント インスタンスを指定します。
nve-only	VXLAN 送信元インターフェイスが NVE 専用であることを指定します。
peer ip	ピア VTEP の IP アドレスを手動で指定します。
segment-id	VNI インターフェイスの VXLAN セグメント ID を指定します。
show arp vtep-mapping	リモート セグメント ドメインにある IP アドレスとリモート VTEP IP アドレス用の VNI インターフェイスにキャッシュされた MAC アドレスを表示します。
show interface vni	VNI インターフェイスのパラメータ、ステータス、および統計情報と、ブリッジされているインターフェイス（設定されている場合）のステータス、ならびに関連付けられている NVE インターフェイスを表示します。
show mac-address-table vtep-mapping	リモート VTEP IP アドレスが設定された VNI インターフェイス上のレイヤ 2 転送テーブル（MAC アドレス テーブル）を表示します。

コマンド	説明
show nve	NVE インターフェイスのパラメータ、ステータス、および統計情報とキャリア インターフェイス（送信元インターフェイス）のステータス、この NVE を VXLAN VTEP として使用する VNI、ならびにこの NVE インターフェイスに関連付けられているピア VTEP IP アドレスを表示します。
show vni vlan-mapping	VNI セグメント ID と、VLAN インターフェイスまたはトランスペアレント モードの物理インターフェイス間のマッピングを表示します。
source-interface	VTEP 送信元インターフェイスを指定します。
vtep-nve	VNI インターフェイスを VTEP 送信元インターフェイスに関連付けます。
vxlan port	VXLAN UDP ポートを設定します。デフォルトでは、VTEP 送信元インターフェイスは UDP ポート 4789 への VXLAN トラフィックを受け入れます。

default-metric

再配布されるルートの EIGRP メトリックを指定するには、ルータ コンフィギュレーション モードで **default-metric** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-metric *bandwidth delay reliability loading mtu*

no default-metric *bandwidth delay reliability loading mtu*

構文の説明

bandwidth	ルートの最小帯域幅（KB/秒単位）。有効な値は、1 ～ 4294967295 です。
delay	ルート遅延（10 マイクロ秒単位）。有効な値は、1 ～ 4294967295 です。
loading	ルートの有効な帯域幅。1 ～ 255 の数値で表されます（255 は 100 % のロード）。
mtu	許可する MTU の最小値（バイト単位）。有効値は 1 ～ 65535 です。
reliability	正常なパケット伝送の可能性。0 ～ 255 の数値で表されます。値 255 は 100 % の信頼性を意味し、0 は信頼性がないことを意味します。

デフォルト

デフォルト メトリックなしで再配布できるのは、接続されているルートのみです。再配布される接続ルートのメトリックは、0 に設定されます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。
9.0(1)	マルチ コンテキスト モードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

redistribute コマンドで **metric** キーワードおよび属性を使用しない場合は、デフォルト メトリックを使用して、EIGRP にプロトコルを再配布する必要があります。メトリックのデフォルトは、さまざまなネットワークで機能するよう慎重に設定されています。値を変更する場合は、最大限の注意を払うようにしてください。スタティック ルートから再配布する場合のみ、同じメトリックを維持できます。

IPv6 対応インターフェイスで許可される最小 MTU は 1280 バイトです。ただし、IPsec がインターフェイスでイネーブルになっている場合、MTU 値は、IPsec 暗号化のオーバーヘッドのために 1380 未満に設定できません。インターフェイスを 1380 バイト未満に設定すると、パケットのドロップが発生する可能性があります。

例

次に、再配布された RIP ルート メトリックが EIGRP メトリックに変換される例を示します。使用する値は、次のとおりです。bandwidth = 1000、delay = 100、reliability = 250、loading = 100、および MTU = 1500。

```
ciscoasa(config)# router eigrp 100
ciscoasa(config-router)# network 172.16.0.0
ciscoasa(config-router)# redistribute rip
ciscoasa(config-router)# default-metric 1000 100 250 100 1500
```

関連コマンド

コマンド	説明
router eigrp	EIGRP ルーティング プロセスを作成して、そのプロセスのルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
redistribute（EIGRP）	EIGRP ルーティング プロセスにルートを再配布します。

default user group

クラウド Web セキュリティの場合、ASA に入ってくるユーザのアイデンティティを ASA が判別できない場合のデフォルトのユーザ名やグループを指定するには、パラメータ コンフィギュレーション モードで **default user group** コマンドを使用します。デフォルトのユーザまたはグループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。パラメータ コンフィギュレーション モードにアクセスするには、まず **policy-map type inspect scansafe** コマンドを入力します。

default {[**user** *username*] [**group** *groupname*]}

no default [**user** *username*] [**group** *groupname*]

構文の説明

username	デフォルトのユーザ名を指定します。
groupname	デフォルトのグループ名を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
パラメータ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
9.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ASA に入ってくるユーザのアイデンティティを ASA が判別できない場合、デフォルトのユーザやグループが HTTP ヘッダーに含まれています。

例

次に、デフォルト名を「Boulder」、グループ名を「Cisco」として設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# policy-map type inspect scansafe cws_inspect_pmap1
ciscoasa(config-pmap)# parameters
ciscoasa(config-pmap-p)# http
ciscoasa(config-pmap-p)# default name Boulder group Cisco
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map type inspect scansafe	ホワイトリストに記載されたユーザとグループのインスペクション クラス マップを作成します。
http[s]（パラメータ）	インスペクション ポリシー マップのサービス タイプ（HTTP または HTTPS）を指定します。
inspect scansafe	このクラスのトラフィックに対するクラウド Web セキュリティ インスペクションをイネーブルにします。
license	要求の送信元の組織を示すため、ASA がクラウド Web セキュリティ プロキシ サーバに送信する認証キーを設定します。
match user group	ユーザまたはグループをホワイトリストと照合します。
policy-map type inspect scansafe	インスペクション ポリシー マップを作成すると、ルールのために必要なパラメータを設定し、任意でホワイトリストを識別できます。
retry-count	再試行回数値を入力します。この値は、可用性をチェックするために、クラウド Web セキュリティ プロキシ サーバをポーリングする前に ASA が待機する時間です。
scansafe	マルチ コンテキスト モードでは、コンテキストごとにクラウド Web セキュリティを許可します。
scansafe general-options	汎用クラウド Web セキュリティ サーバ オプションを設定します。
server {**primary** | **backup**}	プライマリまたはバックアップのクラウド Web セキュリティ プロキシ サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを設定します。
show conn scansafe	大文字の Z フラグに示されたようにすべてのクラウド Web セキュリティ接続を表示します。
show scansafe server	サーバが現在のアクティブ サーバ、バックアップ サーバ、または到達不能のいずれであるか、サーバのステータスを表示します。
show scansafe statistics	合計と現在の http 接続を表示します。
user-identity monitor	AD エージェントから指定したユーザまたはグループ情報をダウンロードします。
whitelist	トラフィックのクラスでホワイトリスト アクションを実行します。

遅延

インターフェイスの遅延値を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **delay** コマンドを使用します。デフォルトの遅延値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delay *delay-time*

no delay

構文の説明

delay-time	遅延時間（10 マイクロ秒単位）。有効な値は、1 ～ 16777215 です。

デフォルト

デフォルトの遅延はインターフェイス タイプによって異なります。インターフェイスのデフォルト値を確認するには、**show interface** コマンドを使用します。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。
9.1(6)	マルチ コンテキスト モードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

値は 10 マイクロ秒単位で入力します。**show interface** の出力に表示される遅延値は、マイクロ秒単位です。

例

次に、インターフェイスの遅延をデフォルトの 1000 から 2000 に変更する例を示します。**delay** コマンドの前と後に切り捨てられた **show interface** コマンドの出力が含まれ、このコマンドが遅延値にどのように影響を与えるかを示します。遅延値は、**show interface** の出力の 2 行め、DLY ラベルの後に記載されます。

遅延値を 2000 に変更するために入力するコマンドは、**delay 2000** ではなく **delay 200** です。これは、**delay** コマンドで入力する値が 10 マイクロ秒単位であり、**show interface** の出力ではマイクロ秒単位で表示されるためです。

```
ciscoasa(config)# interface Ethernet0/0
ciscoasa(config-if)# show interface Ethernet0/0
```

```
Interface Ethernet0/0 "outside", is up, line protocol is up
  Hardware is i82546GB rev03, BW 100 Mbps, DLY 1000 usec
        Auto-Duplex(Half-duplex), Auto-Speed(100 Mbps)
        MAC address 0013.c480.7e16, MTU 1500
        IP address 10.86.194.224, subnet mask 255.255.254.0
! Remainder of the output removed

ciscoasa(config-if)# delay 200
ciscoasa(config-if)# show interface Ethernet0/0

Interface Ethernet0/0 "outside", is up, line protocol is up
  Hardware is i82546GB rev03, BW 100 Mbps, DLY 2000 usec
        Auto-Duplex(Half-duplex), Auto-Speed(100 Mbps)
        MAC address 0013.c480.7e16, MTU 1500
        IP address 10.86.194.224, subnet mask 255.255.254.0
! Remainder of the output removed
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスの統計情報および設定を表示します。

delete

フラッシュ メモリからファイルを削除するには、特権 EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。

delete [**/noconfirm**] [**/recursive**] [**/replicate**] [**disk0: | disk1: | flash:**] [*path/*] *filename*

構文の説明

/noconfirm	（任意）確認のためのプロンプトを表示しないように指定します。
/recursive	（任意）すべてのサブディレクトリの指定されたファイルを再帰的に削除します。
/replicate	（オプション）スタンバイ ユニットの指定されたファイルを削除します。
disk0:	（オプション）内部のフラッシュ メモリを指定します。
disk1:	（オプション）外部フラッシュ メモリ カードを指定します。
filename	削除するファイルの名前を指定します。
flash:	（オプション）内部のフラッシュ メモリを指定します。このキーワードは、**disk0** と同じです。
path/	（任意）ファイルのパスに指定します。

デフォルト

ディレクトリを指定しない場合、ディレクトリはデフォルトで現在の作業ディレクトリになります。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

パスを指定しない場合は、現在の作業ディレクトリからファイルが削除されます。ファイルの削除では、ワイルドカードがサポートされています。ファイルを削除する場合、ファイル名のプロンプトが表示され、削除を確認する必要があります。

例

次に、現在の作業ディレクトリから test.cfg という名前のファイルを削除する例を示します。

```
ciscoasa# delete test.cfg
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリから、指定したディレクトリに変更します。
rmdir	ファイルまたはディレクトリを削除します。
show file	指定されたファイルを表示します。

deny-message

WebVPN に正常にログインしたが、VPN 特権を持たないリモート ユーザに配信されるメッセージを変更するには、グループ webvpn コンフィギュレーション モードで **deny-message value** コマンドを使用します。文字列を削除して、リモート ユーザがメッセージを受信しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

deny-message value *string*

no deny-message value

構文の説明

string	491 文字以下の英数字。特殊文字、スペース、および句読点を含みます。

デフォルト

デフォルトの拒否メッセージは次のとおりです。「Login was successful, but because certain criteria have not been met or due to some specific group policy, you do not have permission to use any of the VPN features. Contact your IT administrator for more information.」

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グループ webvpn コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
7.1(1)	このコマンドは、トンネル グループ webvpn コンフィギュレーション モードからグループ webvpn コンフィギュレーション モードに変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを入力する前に、グローバル コンフィギュレーション モードで **group-policy** *name* **attributes** コマンドを入力してから、**webvpn** コマンドを入力する必要があります(この手順は、ポリシー name が作成済みであることを前提としています)。

no deny-message none コマンドは、グループ webvpn コンフィギュレーションから属性を削除します。ポリシーは属性値を継承します。

deny-message value コマンドへのストリングの入力時は、コマンドがラップしている場合でも引き続き入力します。

VPN セッションに使用されるトンネル ポリシーとは独立して、ログイン時にリモート ユーザのブラウザにテキストが表示されます。

例

次に、group2 という名前の内部グループ ポリシーを作成する最初のコマンドの例を示します。後続のコマンドによって、このポリシーに関連付けられている拒否メッセージを変更します。

```
ciscoasa(config)# group-policy group2 internal
ciscoasa(config)# group-policy group2 attributes
ciscoasa(config-group-policy)# webvpn
ciscoasa(config-group-webvpn)# deny-message value "Your login credentials are OK. However,
you have not been granted rights to use the VPN features. Contact your administrator for
more information."
ciscoasa(config-group-webvpn)
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure group-policy	すべてのグループ ポリシー コンフィギュレーションを削除します。
group-policy	グループ ポリシーを作成します。
group-policy attributes	グループ ポリシー属性コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config group-policy	指定したポリシーの実行グループ ポリシー コンフィギュレーションが表示されます。
webvpn	グループ ポリシー webvpn コンフィギュレーション モードを開始します。

deny version

SNMP トラフィックの特定のバージョンを拒否するには、SNMP マップ コンフィギュレーション モードで **deny version** コマンドを使用します。このコマンドをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

deny version *version*

no deny version *version*

構文の説明

version	ASA がドロップする SNMP トラフィックのバージョンを指定します。使用可能な値は、**1**、**2**、**2c**、および **3** です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
SNMP マップ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SNMP トラフィックを特定の SNMP バージョンに制限するには、**deny version** コマンドを使用します。以前のバージョンの SNMP はセキュリティがより低いため、セキュリティ ポリシーで SNMP トラフィックを Version 2 に制限できます。グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-map** コマンドを入力してアクセスできる **snmp-map** コマンドを使用して設定する SNMP マップ内で、**deny version** を使用します。SNMP マップの作成後に、**inspect snmp** コマンドを使用してこのマップをイネーブルにし、**service-policy** コマンドを使用して 1 つ以上のインターフェイスに適用します。

例

次に、SNMP トラフィックを指定し、SNMP マップを定義し、ポリシーを定義して、そのポリシーを外部インターフェイス適用する例を示します。

```
ciscoasa(config)# access-list snmp-acl permit tcp any any eq 161
ciscoasa(config)# access-list snmp-acl permit tcp any any eq 162
ciscoasa(config)# class-map snmp-port
ciscoasa(config-cmap)# match access-list snmp-acl
```

```
ciscoasa(config-cmap)# exit
ciscoasa(config)# snmp-map inbound_snmp
ciscoasa(config-snmp-map)# deny version 1
ciscoasa(config-snmp-map)# exit
ciscoasa(config)# policy-map inbound_policy
ciscoasa(config-pmap)# class snmp-port
ciscoasa(config-pmap-c)# inspect snmp inbound_snmp
ciscoasa(config-pmap-c)# exit
ciscoasa(config-pmap)# exit
ciscoasa(config)# service-policy inbound_policy interface outside
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	セキュリティ アクションを適用するトラフィック クラスを定義します。
inspect snmp	SNMP アプリケーション インスペクションをイネーブルにします。
policy-map	特定のセキュリティ アクションにクラス マップを関連付けます。
snmp-map	SNMP マップを定義し、SNMP マップ コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
service-policy	1 つ以上のインターフェイスにポリシー マップを適用します。

description

指定したコンフィギュレーション ユニット（たとえば、コンテキスト、オブジェクト グループ、または DAP レコード）に対する説明を追加するには、各コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *text*

no description

構文の説明

text	説明を最大 200 文字のテキスト文字列で設定します。説明は、コンフィギュレーションの情報として役立ちます。ダイナミック アクセス ポリシー レコード モードの場合、最大長は 80 文字です。イベント マネージャ アプレットの場合、最大長は 256 文字です。 ストリングに疑問符（?）を含める場合は、不注意から CLI ヘルプを呼び出さないように、Ctrl+V を入力してから疑問符を入力する必要があります。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

このコマンドは、さまざまなコンフィギュレーション モードで使用できます。

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
8.0(2)	ダイナミック アクセス ポリシー レコード コンフィギュレーション モードのサポートが追加されました。
9.2(1)	イベント マネージャ アプレット コンフィギュレーション モードのサポートが追加されました。

例

次に、「管理」コンテキスト コンフィギュレーションに説明を追加する例を示します。

```
ciscoasa(config)# context administrator
ciscoasa(config-context)# description This is the admin context.
ciscoasa(config-context)# allocate-interface gigabitethernet0/0.1
ciscoasa(config-context)# allocate-interface gigabitethernet0/1.1
ciscoasa(config-context)# config-url flash://admin.cfg
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	**policy-map** コマンドのアクションを適用するトラフィックを指定します。
context	システム コンフィギュレーションにセキュリティ コンテキストを作成し、コンテキスト コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
object-group	**access-list** コマンドに含めるトラフィックを指定します。
policy-map	**class-map** コマンドで指定したトラフィックに適用するアクションを指定します。

dhcp-client broadcast-flag

ASA による DHCP クライアント パケットへのブロードキャスト フラグの設定を許可するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dhcp-client broadcast-flag** コマンドを使用します。ブロードキャスト フラグを禁止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp-client broadcast-flag

no dhcp-client broadcast-flag

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは、ブロードキャスト フラグはディセーブルになっています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip address dhcp コマンドを使用してインターフェイスの DHCP クライアントをイネーブルにすると、DHCP クライアントが検出を送信して IP アドレスを要求するときに、このコマンドを使用して、DHCP パケット ヘッダーでブロードキャスト フラグを 1 に設定できます。DHCP サーバはこのブロードキャスト フラグをリッスンし、フラグが 1 に設定されている場合は応答パケットをブロードキャストします。

no dhcp-client broadcast-flag コマンドを入力すると、ブロードキャスト フラグは 0 に設定され、DHCP サーバは応答パケットを提供された IP アドレスのクライアントにユニキャストします。

DHCP クライアントは、DHCP サーバからブロードキャスト オファーとユニキャスト オファーの両方を受信できます。

例

次に、ブロードキャスト フラグをイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# dhcp-client broadcast-flag
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip address dhcp	インターフェイスで DHCP クライアントをイネーブルにします。
interface	IP アドレスを設定するために、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
dhcp-client client-id	DHCP 要求パケット オプション 61 を、インターフェイス MAC アドレスが含まれるように設定します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントで DNS 更新をイネーブルにします。

dhcp-client client-id

デフォルトの内部生成された文字列ではなく、オプション 61 の DHCP 要求パケットに MAC アドレスが保存されるよう強制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dhcp-client client-id** コマンドを使用します。MAC アドレスを禁止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp-client client-id interface *interface_name*

no dhcp-client client-id interface *interface_name*

構文の説明

interface *interface_name*	オプション 61 用に MAC アドレスをイネーブルにするインターフェイスを指定します。

デフォルト

デフォルトでは、オプション 61 には内部生成 ASCII ストリングが使用されます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip address dhcp コマンドを使用してインターフェイスの DHCP クライアントをイネーブルにすると、一部の ISP でオプション 61 がインターフェイス MAC アドレスであると見なされます。MAC アドレスが DHCP 要求パケットに含まれていない場合、IP アドレスは割り当てられません。**dhcp-client client-id** コマンドを使用して、オプション 61 用にインターフェイス MAC アドレスを含めます。

例

次に、外部インターフェイスのオプション 61 用に MAC アドレスをイネーブルに例を示します。

```
ciscoasa(config)# dhcp-client client-id interface outside
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip address dhcp	インターフェイスで DHCP クライアントをイネーブルにします。
interface	IP アドレスを設定するために、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
dhcp-client broadcast-flag	DHCP クライアント パケットにブロードキャスト フラグを設定します。
dhcp-client update dns	DHCP クライアントで DNS 更新をイネーブルにします。

dhcp client route distance

DHCP を通じて学習したルートにアドミニストレーティブ ディスタンスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **dhcp client route distance** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp client route distance *distance*

no dhcp client route distance *distance*

構文の説明

distance	DHCP を通じて学習したルートに適用するアドミニストレーティブ ディスタンス。有効な値は、1 ～ 255 です。

デフォルト

DHCP を通じて学習したルートには、デフォルトでアドミニストレーティブ ディスタンス 1 が指定されています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

dhcp client route distance コマンドは、ルートが DHCP を通じて学習された場合にのみチェックされます。ルートが DHCP を通じて学習された後に **dhcp client route distance** コマンドが開始されると、指定したアドミニストレーティブ ディスタンスは、学習された既存のルートに影響を与えません。指定したアドミニストレーティブ ディスタンスが設定されるのは、このコマンドの入力後に学習されたルートだけです。

DHCP でルートを取得するには、**ip address dhcp** コマンドで **setroute** オプションを指定する必要があります。

DHCP を複数のインターフェイスで設定している場合、インストールされたルートの優先度を指定するには、各インターフェイスで **dhcp client route distance** コマンドを使用する必要があります。

例

次に、GigabitEthernet0/2 で DHCP によりデフォルト ルートを取得する例を示します。このルートは、トラッキング エントリ オブジェクト 1 によって追跡されます。SLA 動作によって、outside インターフェイスからの 10.1.1.1 ゲートウェイの可用性がモニタされます。SLA 動作が失敗した場合、GigabitEthernet0/3 で DHCP により取得したバックアップ ルートが使用されます。バックアップ ルートには、アドミニストレーティブ ディスタンスに 254 が割り当てられます。

```
ciscoasa(config)# sla monitor 123
ciscoasa(config-sla-monitor)# type echo protocol ipIcmpEcho 10.1.1.1 interface outside
ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# timeout 1000
ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# frequency 3
ciscoasa(config)# sla monitor schedule 123 life forever start-time now
ciscoasa(config)# track 1 rtr 123 reachability
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/2
ciscoasa(config-if)# dhcp client route track 1
ciscoasa(config-if)# ip address dhcp setroute
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/3
ciscoasa(config-if)# dhcp client route track 1
ciscoasa(config-if)# dhcp client route distance 254
ciscoasa(config-if)# ip address dhcp setroute
```

関連コマンド

コマンド	説明
dhcp client route track	DHCP を通じて学習したルートをトラッキング エントリ オブジェクトに関連付けます。
ip address dhcp	指定したインターフェイスに DHCP で取得した IP アドレスを設定します。
sla monitor	SLA モニタリング動作を定義します。
track rtr	SLA をポーリングするためのトラッキング エントリを作成します。

dhcp client route track

追加ルートをトラッキング済みの指定オブジェクト番号に関連付けるように DHCP クライアントを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **dhcp client route track** コマンドを使用します。DHCP クライアントのルート トラッキングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp client route track *number*

no dhcp client route track

構文の説明

number	トラッキング エントリのオブジェクト ID。有効な値は、1 ～ 500 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

dhcp client route track コマンドは、ルートが DHCP を通じて学習された場合にのみチェックされます。ルートが DHCP から学習された後で **dhcp client route track** コマンドを入力すると、学習された既存のルートはトラッキング オブジェクトに関連付けられません。次の 2 つのコマンドを正しい順序で入力する必要があります。常に **dhcp client route track** コマンドを最初に入力し、その後に **ip address dhcp setroute** コマンドを入力してください。**ip address dhcp setroute** コマンドをすでに入力している場合は削除して、前述した順序で再入力します。指定したトラッキング オブジェクトに関連付けられるのは、このコマンドの入力後に学習されたルートだけです。

DHCP でルートを取得するには、**ip address dhcp** コマンドで **setroute** オプションを指定する必要があります。

DHCP を複数のインターフェイスで設定している場合、インストールされたルートの優先度を指定するには、各インターフェイスで **dhcp client route distance** コマンドを使用する必要があります。

例

次に、GigabitEthernet0/2 で DHCP によりデフォルト ルートを取得する例を示します。このルートは、トラッキング エントリ オブジェクト 1 によって追跡されます。SLA 動作によって、outside インターフェイスからの 10.1.1.1 ゲートウェイの可用性がモニタされます。SLA 動作が失敗した場合、GigabitEthernet0/3 で DHCP により取得したバックアップ ルートが使用されます。バックアップ ルートには、アドミニストレーティブ ディスタンスに 254 が割り当てられます。

```
ciscoasa(config)# sla monitor 123
ciscoasa(config-sla-monitor)# type echo protocol ipIcmpEcho 10.1.1.1 interface outside
ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# timeout 1000
ciscoasa(config-sla-monitor-echo)# frequency 3
ciscoasa(config)# sla monitor schedule 123 life forever start-time now
ciscoasa(config)# track 1 rtr 123 reachability
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/2
ciscoasa(config-if)# dhcp client route track 1
ciscoasa(config-if)# ip address dhcp setroute
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/3
ciscoasa(config-if)# dhcp client route distance 254
ciscoasa(config-if)# ip address dhcp setroute
```

関連コマンド

コマンド	説明
dhcp client route distance	DHCP を通じて学習したルートにアドミニストレーティブ ディスタンスを割り当てます。
ip address dhcp	指定したインターフェイスに DHCP で取得した IP アドレスを設定します。
sla monitor	SLA モニタリング動作を定義します。
track rtr	SLA をポーリングするためのトラッキング エントリを作成します。

dhcp-client update dns

DHCP クライアントが DHCP サーバに渡す更新パラメータを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dhcp-client update dns** コマンドを使用します。DHCP クライアントが DHCP サーバに渡すパラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp-client update dns [**server** {**both** | **none**}]

no dhcp-client update dns [**server** {**both** | **none**}]

構文の説明

both	DHCP サーバが DNS A および PTR リソース レコードの両方を更新するクライアント要求。
none	DHCP サーバが DDNS 更新を実行しないクライアント要求。
サーバ	DHCP サーバがクライアント要求を受信するように指定します。

デフォルト

デフォルトでは、ASA は、DHCP サーバが PTR RR 更新のみを実行するよう要求します。クライアントはサーバに FQDN オプションを送信しません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドはインターフェイス コンフィギュレーション モードでも入力できますが、ハイフンは使用しません。**dhcp client update dns** コマンドを参照してください。インターフェイス モードで **dhcp client update dns** コマンドを入力すると、グローバル コンフィギュレーション モードのこのコマンドで設定した設定値が上書きされます。

例

次に、DHCP サーバが A および PTR RR を更新しないことを要求するようクライアントを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# dhcp-client update dns server none
```

次に、サーバが A および PTR RR を更新することを要求するようクライアントを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# dhcp-client update dns server both
```

関連コマンド

コマンド	説明
ddns	作成済みの DDNS 方式に対して、DDNS アップデート方式のタイプを指定します。
ddns update	DDNS アップデート方式を ASA のインターフェイスまたは DDNS アップデート ホスト名に関連付けます。
ddns update method	DNS のリソース レコードをダイナミックにアップデートするための方式を作成します。
dhcpd update dns	DHCP サーバによる DDNS アップデートの実行をイネーブルにします。
interval maximum	DDNS アップデート方式によるアップデート試行の最大間隔を設定します。

dhcp-network-scope

ASA DHCP サーバが、このグループ ポリシーのユーザにアドレスを割り当てるために使用する必要がある IP アドレスの範囲を指定するには、グループ ポリシー コンフィギュレーション モードで **dhcp-network-scope** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションから属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp-network-scope {*ip_address*} | **none**

no dhcp-network-scope

構文の説明

ip_address	このポリシー グループのユーザに IP アドレスを割り当てるため、DHCP サーバが使用する必要がある IP サブネットワークを指定します。
none	DHCP サブネットワークをヌル値に設定して、IP アドレスが許可されないようにします。デフォルトのグループ ポリシーまたは指定されているグループ ポリシーから値を継承しないようにします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
グループ ポリシー	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、別のグループ ポリシーの値を継承できます。値を継承できないようにするには、**dhcp-network-scope none** コマンドを使用します。

例

次に、First Group という名前のグループ ポリシーに対して、IP サブネットワーク 10.10.85.1 を設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# group-policy FirstGroup attributes
ciscoasa(config-group-policy)# dhcp-network-scope 10.10.85.1
```

dhcp-server

VPN トンネルの確立時にクライアントに IP アドレスを割り当てる DHCP サーバのサポートを設定するには、トンネル グループ一般属性コンフィギュレーション モードで **dhcp-server** コマンドを使用します。このコマンドをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dhcp-server [**link-selection** | **subnet-selection**] **ip1** [**ip2-ip10**]

[**no**] **dhcp-server** [**link-selection** | **subnet-selection**] **ip1** [**ip2-ip10**]

構文の説明

ip1	DHCP サーバのアドレス。
ip2-ip10	(オプション)追加の DHCP サーバのアドレス。1 回のコマンドで最大 10 個まで指定できます。また、複数のコマンドにまたがって指定できます。
link-selection	(オプション)ASA が RFC 3527 で規定されている DHCP サブオプション 5「リレー情報オプション 82 のリンク選択のサブオプション」を送信するかどうかを指定します。この設定は、この RFC をサポートしているサーバのみで使用します。
subnet-selection	(オプション)ASA が RFC 3011 で規定されている DHCP オプション 118「IPv4 サブネット選択オプション」を送信するかどうかを指定します。この設定は、この RFC をサポートしているサーバのみで使用します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
				マルチ	
コマンド モード	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	コンテキスト	システム
トンネル グループ一般属性コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
8.0(5)	**link-selection** および **subnet-selection** キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

この属性は、リモート アクセス トンネル グループ タイプに対してのみ適用できます。

例

次のコマンドを設定一般コンフィギュレーション モードで入力して、3 つの DHCP サーバ（dhcp1、dhcp2、および dhcp3）を IPsec リモート アクセス トンネル グループ「remotegrp」に追加する例を示します。

```
ciscoasa(config)# tunnel-group remotegrp type remote-access
ciscoasa(config)# tunnel-group remotegrp general
ciscoasa(config-tunnel-general)# default-group-policy remotegrp
ciscoasa(config-tunnel-general)# dhcp-server dhcp1 dhcp2 dhcp3
ciscoasa(config-tunnel-general)
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear-configure tunnel-group	設定されているすべてのトンネル グループをクリアします。
show running-config tunnel group	すべてのトンネル グループまたは特定のトンネル グループのトンネル グループ コンフィギュレーションを表示します。
tunnel-group general-attributes	名前付きのトンネル グループの一般属性を指定します。